工業部会通信

（発行）
かながわ経済新聞合同会社
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
商工会館本館１階
※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞 KANAKEI

「自社技術磨き海外へ」

甲斐部会長にインタビュー

今年の地域経済は―。２０２０年の東京五輪開催などで景気回復に期待が高まるなか、相模原市内の製造業が感じている足元の景況感、そして２０１８年の展望はどうなのか。甲斐美利部会長（向洋技研社長）に聞いた。

―２０１８年の市内景気についてどう見ていますか。

「全体としては伸びると思います。私たち製造業でも、ＥＶ（電気自動車）やＡＩ（人工知能）なども追い風となり、中でも半導体関連は需要が増え続けており、関連企業は生産が追いつかない状況です。こうした中で、私たち中小企業に求められているのはやはり隙間戦略です。いくら景気が良いとはいえ、大企業とは勝負するべきではないと思っています。小さな会社にとっての戦略は徹底的な差別化です。大企業と中小企業の差は何か。中小企業は、徹底的に隙間をいくしかないと私は考えています。よい技術や製品が生まれたら、特許などをどんどん出して保護していったら良いです」

―ＩｏＴ（モノのインターネット）の流れも止まりません。

「下手に流されて大手企業と同じことをやっていても結局は負けてしまいます。ＩｏＴやＡＩの波は何も怖がることはないと思います。大手企業が出しているセンサーやデバイスはたくさんある訳ですから、それらを買えば良いのです。むしろ、自社の強みを磨いておくべきだと思います」

―工業部会として会員企業の国際化も後押しするよう、昨年は委員会を設けました。

「自社製品を持っている企業は今後、国内市場だけではやっていけません。積極的に海外に売り込んでいく必要があります。また、最近では逆のパターンもあります。展示会に足を運んでも、海外企業もよく見に来ています。例え自社製品を持っていない企業にとっても、日本でないと加工できない製品がたくさんあります。日本で受注して海外に収めるというようなケースもあると思います」

―今後、市内工業系企業がやっていくべきことは何でしょうか。

「ロボット産業の育成も大切だと思いますが、市内には、まだまだパーツなど〝小さな完成品〟を持った企業が数多くあるはずです。ロボット本体ではなく、ユニットにしたものをどんどん磨き込み、大手企業の商品群に吸収されないよう、しっかりと知財対応を進め海外に売り込んいくべきだと思います」

「技術革新やＩＴ化が重なり、今、私たち中小製造業は大きな転換期に差し掛かっています。言い換えれば、自由にビジネスができるチャンスだと思っています。例えば、当社の製品『マイスポット』は国内外で累計３０００台を販売しています。当社のような中小企業でも海外を視野に入れてやっていくだけで、これだけの台数が販売できるのです。海外では中小企業の製品でも『メイド・イン・ジャパン』と言うだけで、トヨタやホンダと同じように見てくれます」

2018年の市内景気展望
「全体として伸びる」

「自動運転」で視察会
建設、交通運輸業と連携

工業部会（甲斐美利部会長）、建設業部会（谷津弘部会長）、交通運輸業部会（荏原喜希部会長）は、１月19日に「自動運転」をテーマにした視察会を開催。24人が参加した。

この視察会は、近年話題となっている「自動運転」技術の発展が業界へもたらす影響が大きい、工業・建設業・交通運輸業部会で連携し、最新技術や業界動向を学ぶために企画されたもの。

視察では、自動運転車の分野をリードする「テスラモーターズ　青山ショールーム」＝写真＝にて同社の技術をはじめ、電気自動車の仕組み、充電、自動運転機能、電気自動車にかかる補助金や税制などの購入後のランニングコストなどについて説明を受けた。

続いて一行は、東京ビッグサイトで開催された「オートモーティブワールド」を見学。同展示会は、自動運転、クルマの電子化・電動化、コネクティッド・カー、軽量化など、自動車業界における重要なテーマの最新技術について１１００社が出展していた。

福島の取り組み紹介でセミナー

ロボビジネス協

さがみはらロボットビジネス協議会は２月20日の18～19時半まで、市立産業会館で「福島県の取り組みとフィールドロボットビジネスの可能性」と題したセミナーを開催する。定員40人まで。

福島県は、国家プロジェクト「福島イノベーションコースト構想」によるロボット産業を含む新産業創出や、ロボットテストフィールド（ＲＴＦ）の整備などに取り組む。中でも今年から順次開所される「福島ＲＴＦ」は、物流、インフラ、災害対応などの分野のロボット実証に向けた施設であり、陸・海・空のフィールドロボットの技術開発促進と、市場創出への期待がされている。

同セミナーでは、ＲＴＦの利活用や、福島県の補助金等各種支援事業について、県の担当者が解説。ロボット関連企業等との連携や、フィールドロボット市場でのビジネスの可能性を探る。

新規会員募集中
近未来技術研究会
相模原商工会議所工業部会